令和2年度学校評価総括表

重点目標 (1) 安心安全な学校づくり

NO. 1

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
○ 安全（通学・給食・医療的ケア等）指導の推進 【管理職】	(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した学校づくりを進める。	評価指標 (1) - 1 文部科学省・県教育委員会の指針をもとに、学校独自のガイドラインを作成する。 (1) - 2 行事を見直し、感染防止対策を講じた上で実施する。 (1) - 3 緊急連絡システム「スクールi ネット」の保護者・関係施設の登録が85%以上となる。	評価指標の達成度 (1) - 1 学校および学部別で感染症予防対策を検討しガイドラインを作成できた。 (1) - 2 実施した行事において、実施計画に感染症対策を明記し、各行事の運営を行うことができた。 (1) - 3 緊急連絡システム「スクールi ネット」未登録の保護者への依頼を行い、登録率は90%であり達成できた。	・新型コロナウイルス感染症対策と学校運営の両立が十分に図られている。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症対策に追われた。定期的に見直しを検討したが、状況が好転せず、ほぼ当初に作成した学校ガイドラインに基づいて、教育活動を実施せざるをえなかった。児童生徒は行事の中止や変更を余儀なくされ、また、制限がある中で学習に向かう大変な一年であったが、状況を受け入れよく頑張った。 ・保護者の協力により、「スクールi ネット」の登録数も増えている。緊急時の連絡等をいち早く保護者に連絡するツールであるので今後も協力を依頼していく。	・学校の安全管理は多岐にわたる。令和3年度も引き続き児童生徒に対する安全管理対策を強化する必要がある。 ①ガイドラインや対応マニュアル等を学部等の実情に応じた実効性のあるものとする。こと。 ②危機的な状況が発生した際の連絡体制や組織体制の改善を図ること。
		活動計画 (1) - 1 学校ガイドラインに基づき、各学部・寄宿舎において感染症予防対策を検討する。(4月・5月) (1) - 2 学校ガイドラインを状況に応じて改訂し、教育活動を進める。(適宜) (1) - 3 行事の見直しについて各学部・寄宿舎で検討する。(5月・6月) (1) - 4 感染症対策を講じた行事を行う。(年間) (1) - 5 実施した行事は、感染防止対策を講じるとともに、行事・事業の開催チェックリストで対応を確認する。 (1) - 6 掲示板で、全教職員に県の通知等を知らせ、情報を共有する。(適宜) (1) - 7 「スクールi ネット」未登録の家庭・施設への登録を依頼する。(5月・9月)	活動計画の実施状況 (1) - 1 文部科学省・徳島県教育委員会のガイドラインに基づき学校ガイドラインを作成し、教職員に周知した。 (1) - 2 学部からの意見等を聞き取り、部長会でガイドラインの改訂を検討した。 (1) - 3 学校のガイドラインや参考となるチェックリスト等を活用し、年間を通じて行事の見直しを行うことができた。 (1) - 5 行事の実施案を検討した。実施案に基づいて当日の運営を行った。 (1) - 6 教頭が最新の情報を掲示板に掲げ、教職員に周知した。 (1) - 7 教頭が「スクールi ネット」の説明や登録について保護者への依頼文書を送るとともに、未登録の保護者に対して個別に登録依頼を行った。		

令和2年度学校評価総括表

重点課題 (1) 安心安全な学校づくり

NO.2

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
○ 安全（通学・給食・医療的ケア等）指導の推進 【安全課】	(1) 事前準備をしっかり行い、反省点や課題点を洗い出す緊急対応訓練の実施。 (2) 感染症対策の実施。 (3) 校外の専門家と連携し、学校保健や学校安全の充実に図る。	<p>評価指標</p> <p>(1) 児童生徒がいなくなった時に、教職員が適切に行動できるように、実践的な搜索訓練を行う。</p> <p>(2) 感染症予防の観点から児童生徒に感染症対策等を指導し、行動を見守る。</p> <p>(3) 3密を回避する工夫を行い、生徒対象の学習会を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1) 車、自転車、徒歩に分かれ、実践的な搜索訓練が行えた。また実施後にアンケートをとり、反省点を洗い出し、対応を検討するとともに、有事に備え訓練の課題について課会で周知できた。</p> <p>(2) 職員の共通理解のもと、学校生活をはじめ、登下校や休日等、生活全般にわたり感染症対策を指導できた。</p> <p>(3) コロナ感染症対策の観点から、専門家を招聘しての生徒対象の学習会は中止した。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>・学校行事の取り組みについては、国府支援学校が、徳島市の防災拠点の1つでもあることから、避難訓練はもとより、地域から避難流入が見込まれるため、避難開設のノウハウや訓練が必要だと考える。</p>	<p>・今後、更に課員で意見を出し合い、より実践的な搜索訓練にしていきたい。</p> <p>・生徒対象の学習会については、新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら判断し、リモートによる実施等についても検討し、できれば実施したいと考えている。</p> <p>今後も感染症対策を引き続き徹底する。</p>
		<p>活動計画</p> <p>(1) 実践的な搜索訓練を行い、事後アンケートを joruri 掲示板で回覧・集計・報告する。</p> <p>(2) 教育活動全般において、各学部・各教員が学部ごとのマニュアルを基本に、創意工夫しながら3密回避を実践する。</p> <p>(3) 生徒を対象とした「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室」や「不審者対応学習会」を行う。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>----- (所見) ・新型コロナウイルス感染症対策により、様々な行事が中止になったが、感染症対策をしながらできる範囲で実施した。次年度も今年度の経験を生かしながら取り組んでいきたいと考えている。</p>		
		<p>活動計画の実施状況</p> <p>(1) 実践的な搜索訓練を行い、事後アンケートを joruri 上で回覧・集計・報告することができた。</p> <p>(2) 2m以上の間隔を空ける、マスクの着用、手洗い、消毒、換気等の予防を徹底して行うことができた。</p> <p>(3) 「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室」と「不審者対応学習会」については、コロナ感染症対策の観点から実施できなかった。</p>			

令和2年度学校評価総括表

重点目標 (2) 児童生徒に応じた教育活動の充実

NO. 3

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	と今後の改善方策	
○ 障がい特性等に応じた授業改善 (ICT活用) の推進 【 情報課 】	(1) デジタルコンテンツの教材作成を推進し、オンラインでの対応が必要な状況にも対応できる環境を設定する。	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 情報課で3種類以上のビデオ教材を作成し、サーバー上で利用できるようにする。</p> <p>(1) - 2 実施可能なクラスや児童生徒で、zoom でのミーティングを各学部3事例以上行う。</p> <p>(1) - 3 情報科員が作成したプリント教材を、外部からダウンロードできるか試験運用する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1) - 1 それぞれの学部でビデオ教材の作成を行ってもらい、活用を図ることができた。</p> <p>(1) - 2 通常の密を回避する方策として zoom を使用するなど実践を積み重ねることができた。</p> <p>(1) - 3 ダウンロードは可能になったが、現状では使いにくい状況であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>・状況の変化の中で、できる限りのコンテンツの作成と環境設定はできたと思われる。</p>	<p>・本年はコロナウイルス感染症予防対策に明け暮れた年で、直面する学校運営も初めて経験されることばかりで大変だったと思う。特にその中でも IT 関連の各種活用が急務ではないかと思われる。</p> <p>・学校活動の発表の確保が難しい中で、例えば ICT (YouTube 等) 活用をしていただき、児童生徒の取り組みについて、積極的に情報発信していただきたい。</p>	<p>・コンテンツ活用に関しては研究課の教材データベース「タマルクン」の整合性を図っていくことが今後望ましいと思われる。</p> <p>・研修に関しては学校に派遣されている GIGA スクールサポーターとどのように連携を取っていくのが課題である。</p>
		<p>活動計画</p> <p>(1) - 1 短編のビデオ教材の作成を推進し、通常の授業の中で活用できるようにする。</p> <p>(1) - 2 全教員に zoom のアプリの導入と研修を実施し、オンラインのハードルの高さを下げようとする。</p> <p>(1) - 3 プリント教材を普段の学習に利用できるよう、外部からもダウンロードできる環境設定を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>(1) - 1 動画作成と教材提供での活用ができていたので、サーバーでの共有とホームページをどこまで提供するかを検討している。</p> <p>(1) - 2 各学部での研修を行っており、使用頻度も増している。</p> <p>(1) - 3 ホームページ更新中の為に正式運用はできていないが、コンテンツの収集整理を行うことができた。</p>			

令和2年度学校評価総括表

重点目標 (2) 児童生徒に応じた教育活動の充実

NO. 4

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	と今後の改善方策
<p>○ 障がい特性等に応じた授業改善 (ICT活用) の推進</p> <p>【 研究課 】</p>	<p>(1) ※ 教材データベース [タマルクン] について、全校に周知し、全学部の教員が活用できるように体制を整える。</p> <p>(2) 新しい教材を登録できるように、登録方法について学部や学年ごとに研修等を実施し、教材データベースの充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) -1 各学部の教員が iPad の「お気に入り」に「タマルクン」を登録できるように依頼する。</p> <p>(1) -2 教材を各自で登録できるようにするための研修会を学部や学年ごとに実施する。</p> <p>(1) -3 アンケートで、「タマルクン」の教材を活用したり参考にしたしたりして、「授業を実施した」という回答が80%以上となる。</p> <p>(2) アンケートで、「新しい教材を登録した」という回答が、各学年で3人以上となる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1) -1 4月の職員会議や学部会にて、各学部の教員が iPad の「お気に入り」に登録できるように周知した。</p> <p>(1) -2 8月頃までに各学部の各学年ごとに、教材を登録するための研修会を実施できた。</p> <p>(1) -3 1月末にアンケートを実施した。「タマルクン」の教材を活用して授業を実施した「参考にした」という回答は74%であった。</p> <p>(2) 小学部、高等部の各学年と中学部3年において3人以上「新しい教材を登録できた」という回答を得られた。</p>	<p>・児童生徒に応じた教育活動には「タマルクン」の活用が、今後大変重要になると思われる。</p> <p>・「タマルクン」の活用を進めるには、先生方のさらなる資質向上が急務である。</p>	<p>・アンケート結果から、実際に活用して授業を実施した割合は、全学部で18%であり、授業に直接活用できた割合は低かった。高等部は教材を活用して授業を実施した割合が全学部の中で一番高く、30%であった。これは高等部の教材が多いということも理由の一つとして考えられる。今後は小学部、中学部の教材を増やすために、登録の研修(登録の練習を含む)を実施していく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>(1) -1 年度当初(4月)に、職員会議で「タマルクン」について全校に周知する。</p> <p>(1) -2 4～5月に学部会等で、各自が iPad の「お気に入り」に登録できるように説明する。</p> <p>(1) -3 7～8月に、各学部ごとや学年ごとで、教材の登録の仕方についての研修を実施する。</p> <p>(2) -1 9月以降、各学部の各学年ごとに3つ以上の教材を登録してもらうように学部会等で働きかける。</p> <p>(2) -2 年度末(2～3月)に、「タマルクン」の教材を活用したり、参考にしたしたりして授業を実施したか、教材を登録したか等について、アンケートを実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>(1) -1 4月の職員会議にて、「タマルクン」についてログイン方法等を全職員に周知した。</p> <p>(1) -2 4月の学部会や学年会において、実際に iPad を操作しながら、「タマルクン」にログインしたり、「お気に入り」に登録したりできるように説明した。</p> <p>(1) -3 8月頃までに各学部の各学年ごとで、手順書に従って、教材の登録方法についての研修を実施した。</p> <p>(2) -1 手順書をもとに、各自で教材を登録していただくように、学部会や学年会で連絡した。</p> <p>(2) -2 1月末に Joururi 閲覧板を活用し、アンケートを実施した。教材の活用状況や、登録状況について、現状を把握することができた。</p>		

※ 教材データ「タマルクン」とは、本校の教員が児童生徒の実態に応じて作成した教材を校内で共有できるようにデータとして登録したものです。
 現在、2,000以上の教材が登録されており、教科ごとに整理されています。「タマルクン」活用のメリットは、教員の教材作成時間を短縮できたり、実態の似た児童生徒の教材を素早く検索できることです。

令和2年度学校評価総括表

重点目標 (3) 地域や関係機関等と連携

NO. 5

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	と今後の改善方策
○ 小学部から高等部までを見通したキャリア教育の推進 【教務課】	(1) 児童生徒のキャリア育成に関する情報を関係者から収集し、学校間や学部間の指導の連携を図る。	<u>評価指標</u> (1) - 1 関係者（旧担任等）に情報提供を依頼している文書（面接票や希望調査）の見直しを図るため教務課で3回以上話し合いをする。 (1) - 2 学部会等で書式の変更点等を知らせ、年度末までに新たな書式により関係者から情報収集を行う。	<u>評価指標の達成度</u> (1) - 1 入学面接票と個別の指導計画希望調査の見直しを、教務課で4回話し合いをして改善を図った。 (1) - 2 今後、2月の面接担当者打ち合わせなどの機会に変更点を知らせ、2月中旬と3月に情報収集を行う予定である。	・COVID-19の影響下の中、様々な対応を工夫されていた。 ・今年度はコロナウイルス感染症に振り回された。感染予防対策も大変だったと思う。	・長年改訂することなく使用してきた面接票を改訂したので、実際に使用して改善点を見つけていきたい。 また、収集した情報を担任等に知らせることによりキャリア育成を図るための資料とした。
		<u>活動計画</u> (1) - 1 課会の後や夏季休業中に課内での話し合いの機会を設定する。 (1) - 2 2月の入学面接時の保護者面接等の機会を活用して、必要な情報収集に努める。	<u>活動計画の実施状況</u> (1) - 1 教務課会後に話し合う機会を設定したり、養護教諭に意見を聞く機会が設定できた。 (1) - 2 現時点ではできていないが、2月の入学面接時の機会等を活用して、キャリア育成に必要な情報収集に努める。		

令和2年度学校評価総括表

重点目標 (3) 地域や関係機関等と連携

NO. 6

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
○ 教育相談の推進 【地域支援課】	(1) センター的機能を発揮し、地域の学校等の状況把握に努める。	<p>評価指標</p> <p>(1) コロナ対策に対応し学校見学の方法を見直すことで、地域の学校等の状況把握を行い、教育相談へとつなげていくことができる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1) 学校見学を放課後に人数制限を設けて行うことで、保護者や引率教員からの質問等に余裕を持って答えることができた。また、見学を次年度入学の学年と転校予定者に限定して行ったため、その他の希望者には、巡回相談や来校相談を行うことで、密を回避しつつ状況把握に努めることができた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>・地域や関係機関等との連携において、ICT 活用の可能性があるのではないかと思われる。</p>	<p>次年度への課題</p> <p>・センター的機能を発揮し、地域へ向けて積極的な発信をする。 ・ホームページにて具体的かつ明日から活用できるような教材、教具の紹介を定期的に行い、更新する。</p>
		<p>活動計画</p> <p>(1) -1 地域への年度当初の本校の相談業務の紹介 (電話)</p> <p>(1) -2 巡回相談のニーズに対応 (通年)</p> <p>(1) -3 コロナ対策に対応した学校見学の実施 (9月から)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策下での対応に配慮しながらの実施であり、地域の学校や保護者等のニーズに十分に 대응することが難しかった。</p>		